女教師 彩花 二十四歳

第三巻 モデルになった女教師のスーパー・ポーズ

海老沢 薫 著

内容

■著作権について
■まえがき
■第一章　生徒の身体測定に参加する女教師
■海老沢薫ＢＬＯＧ
■海老沢薫Ｗｅｂ連載小説
※海老沢薫ＢＬＯＧ
・・・最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。
https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/

■著作権について

「**女教師　彩花二十四歳　第三巻　モデルになった女教師のスーパー・ポーズ**」（以下本書と表記する）の著作権は【海老沢薫】にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可した場合を除き、本書の一部、または全部を、あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー）により複製、流用、転載、転売することを固く禁じます。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第119条などの罰則がありますのでご注意ください。

■まえがき

教師になってから初めて経験する父兄参観日に、クラス委員の智子達の策略によって、担任を受け持つクラスの生徒全員とその父兄達の前で教師としてあるまじき姿を晒し、途轍もない恥を掻いてしまった彩花。

しかし、幸いにも智子の母でPTA会長も務めるみどりの力によって、父兄参観日での一件は他のクラスの生徒や教職員達には知られずに済んでいた。

そんな中、年に一度行われる生徒達の身体測定の日が訪れる。中学生の生徒達は男子と女子に分かれて、それぞれ別の場所で測定を受ける事になっていた。

身体測定の前日の夜、彩花の元にはクラス委員の智子からメールが届き、そこには彩花にとって驚愕の指令が記されていたのだった。

身体測定当日、彩花は先輩女性教師の藤田に自ら申し出て、中学生の女子生徒達と一緒に体育館二階のフロアで身体測定を受けるこ

とになる。それは、智子から彩花に与えられた命令であり、彩花を教師として新たなステージに突き落とす企みであった。

体育館の二階には、中学一年生から三年生までの二百五十人近い体操着姿の女子生徒達が集まっていた。やがて、彼女達の前に彩花が現れると、二十四歳の美人女教師の予想外の姿に、体育館の中は騒然となるのだった。

■第一章　生徒の身体測定に参加する女教師

彩花にとって教師になって初めて経験した父兄参観日は、あまりに屈辱的で一生消えることのない傷跡を心に残す結果になってしまった。

もはや、担任を受け持つ中学三年生のクラスの生徒達からは性的対象としては見られず、女子生徒達からは軽蔑すべき対象として見られ、男子生徒達からは教師として見られていた。

しかし、彩花にとってまだ幸いだったのは、あの日、父兄に混じって教室の後ろで彩花の屈辱の授業の一部始終を見ていた智子の母親の力によって、あの日の授業の事はその場にいた父兄全員に口止めが厳命され、生徒達も同様に一切他言しないようにとの約束が交わされていたために、学校側にも他のクラスの生徒達にも、彩花の常軌を逸した授業内容につ

いて知られてはいなかったのだ。ただ、その代わりに彩花は、担任を受け持つクラスの生徒やその父兄全員にまで弱みを握られてしまう形になり、ある種クラス全員の奴隷のような存在に成り下がってしまったのだった。

彩花はあれから毎日のように露出度の極めて高い教師としてはふさわしくない服装で登校し、全校生徒や男性教職員達の目を楽しませていた。そして、一部の女性教職員の間からは風紀上の問題を指摘され、職員会議で彩花の服装が議題として取り上げられることもあったが、校長を始めとする大多数の男性教職員の力によって、彩花の服装は暗黙の内に認められる形になっていた。

そんなある日の事だった。彩花の勤める中学校では毎年六月に全校生徒が身体測定を行う事になっており、今年もその日が近づいていた。すると、身体測定の前日夜に彩花の元に智子から一通のメールが送られてきたのだ。

またいつもの命令に違いないと、彩花は憂鬱

な気持ちでそのメールの内容を確かめた。そこにはいつかの父兄参加日の時のように長文のメッセージが記され、それを読み進めていく内に彩花は自然と手を震わせてしまっていた。

なによこれ・・・。智子からの命令は、彩花をさらなる恥辱のステージへと突き落とす内容だったのだ。どうしてこんな酷い事を思いつくの・・・。智子の考えるあまりに卑猥なアイデアに、彩花は恐怖さえ覚えた。

『明日、先生も私達と一緒に体育館で身体測定を受けること！その時、体育館の更衣室で下着姿になって、身体測定の間中、下着姿のままいること！』

智子のメールはそのような始まり、さらに細かな段取りと指示が記されていた。

身体測定は、男子生徒が校舎内にあるセミナールームと呼ばれる部屋を数部屋使って行われ、女子生徒は体育館の二階フロアを貸し

切って行われることになっていた。それぞれ
全校生徒が一堂に会して行われ、昼休み前の
おおよそ一時間の間に実施される予定になって
いた。それは、あくまでも生徒達を対象にし
たものであって、彩花のような教職員の機会は設けら
達とは別にちゃんと身体測定の機会は、女子生
れていた。そのため女性教職員達は、女子生
徒の身体測定の測定係として毎年立ち会い、
教師自らが生徒達と一緒に身体測定を受ける
のは通常ではありえない事であった。しかも
彩花が教師一年目の昨年、身体測定の測定係
を務めた際には、体育館に集合した女子生徒
達は皆、Tシャツに短パンという体育の授業
を受ける恰好で身体測定を受けていたのだ。
胸囲を測る際にもTシャツの上からメジャー
を這わせ、体重測定においても服を着たまま
体重計に乗り、誰一人として下着姿になって
いる生徒などいなかった。それくらい彩花の
勤める中学校では、思春期の女子生徒達に対

して性的な羞恥を僅かでも与えないよう十分な配慮が行われていたのだった。

そんな場に教師である彩花が一人だけ下着姿で参加すればどうなるか、容易に想像がついた。いくら授業参観の教室で生徒と父兄の前で下着姿を晒したとはいえ、明日の身体測定は体育館という広いスペースに女子生徒全員と女性教職員のほとんどが集まるのだ。その羞恥の度合いはこないだの授業参観の比ではなかった。どうすればいいの・・・。体育館の中で大勢の女子生徒達に囲まれた中で、また生き恥を晒すなんて・・・。智子からの命令の書かれたメールを読み終えた彩花は、その夜なかなか眠りにつく事ができなかった。

翌日、学校に登校した彩花は朝から憂鬱だった。午前中に行われる身体測定で自ら演じなければならない羞恥ショーの事を思うと、とても授業どころではなかった。そしてそん

な彩花の様子を智子達は薄笑いを浮かべながら見ていたのだった。

「それではみんな、今日はこれから身体測定があるので、男子、女子それぞれ指定された場所に向かって下さい」

彩花は担任をするクラスの教室で生徒達に告げると、生徒達は教室を出て、男子生徒達は同じ校舎内にあるセミナールームへとぞろぞろ歩き出し、女子生徒達は校舎の隣にある体育館の方へと向かい始めた。

「先生、それじゃあ楽しみにしてるわよ」

智子は彩花に向かってそう言うと、ありさや久美と共に教室を出ていった。

教室に一人残された彩花は、いよいよこれから始まる自らの羞恥ショーのために、覚悟を決めて体育館へ向かうしかなかった。果たして無事にこの教室へ戻って来られるのか、教師としてのプライドを失わずに帰って来られるのか、今の彩花には何も分からなかった。

職員室に戻った彩花は、女性教職員のリーダー的な存在である先輩教師の藤田敦子の元に行き、これから行われる生徒の身体測定に混じって自分も身体測定を受けたい旨を告げた。藤田は五十代半ばの美術の教師で、女子生徒の生活指導部長も務める職員室のお局的存在であった。その性格は、男性教職員達からも敬遠されるほど融通が利かず頑固であったため、どうせ、教師が生徒達に混じって身体測定を受けるなどという無茶な要求はあっさり却下されるだろうと彩花は思っていた。

そうなれば、それを理由として智子達に命令を実行できない言い訳にすれば良いと考えていたのだ。

「分かりました。あなたの好きにしなさい」

藤田の言葉に彩花は一瞬自分の耳を疑ってしまった。

「えっ、本当にいいんですか？」

彩花は思わず聞き返した。

「だから、あなたの好きにすれば良いって言ってるでしょ！」

藤田は面倒臭そうな顔で、ヒステリー気味に怒鳴ると、生徒達の身体測定の測定係をするために職員室を出ていくのだった。

どうしよう・・・。彩花は予想外の展開に戸惑った。昨夜、智子から命令を受けてからずっと悩んでいた彩花は、その命令を実行する上で避けては通れない職員室のお局である藤田の許可が得られなければ、結局は智子の企てる羞恥ショーも実現しないと思い、藤田の却下の言葉に淡い期待を寄せていた。ところが藤田はあっさりと彩花の無茶な申し出を認めたのだ。それは、普段の藤田の言動からは考えられない反応だった。どうして、藤田先生は、教師である自分が生徒達と一緒に身体測定を受けたいという無茶なお願いを何も言わずに認めてくれたのか、彩花にはまるで理解できなかった。

彩花の淡い期待が外れてしまった今、彩花にはもう智子の命令に背く理由は何一つなく、このまま体育館に行き、羞恥ショーのヒロインを演じ切るしか道は残されていなかった。

「木元先生、いつまでそんな所でボッーとしているんですか、早く体育館に行きますよ」

いつのまにか羞恥の妄想に浸り、ぼんやりとした顔で職員室の椅子に座っていた彩花を、同僚の女性教師が注意すると、彩花は慌てて体育館へと向かうのだった。

体育館に着くと、すでに一階にある更衣室で体操着に着替え終わった大勢の女子生徒達が、身体測定の行われる二階への階段をぞろぞろと昇っていた。彩花は彼女達の後追いかけるように、半袖ブラウスにミニスカといった今朝登校した時の恰好のまま二階へ向かった。すると、広い体育館の二階のフロアには二百五十人ほどの女子生徒達が中央に整列して座っていたのだった。

こんな大勢の生徒達の前でするなんて・・・・。全校生徒のおよそ半数に当たる女子生徒達が一堂に会すとやはり威圧感があり、彩花は脚が竦んでしまった。そして、一番端の列に座る智子と目が合った彩花は、智子が意味深な笑みを浮かべながら、自分の方に何やら手で合図を送ってきているのに気付いた。それは早く命令通りにするようにという脅迫のメッセージであることが彩花にはすぐに分かった。

■海老沢薫ＢＬＯＧ

・・・最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/

■そのほかＳＮＳ

https://x.com/ebisawa_K

https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/

https://www.pixiv.net/users/70200870

■海老沢薫Ｗｅｂ連載小説

『清楚な美人妻　彩２７歳　絵画モデル編』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281

『清純派女優　結衣２４歳－国民のペットへと堕ちていくヒロイン－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802

『清純派女優　結衣２４歳－女神の憂鬱－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675

『女教師　玲奈２５歳－女性教諭の前代未聞の不祥事－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186

『美人社長　里帆２６歳－若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885